

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第264回

武藤貴宏

(我武者羅応援團) の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年7月26日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

生きるとは『自分にはまだこんなにも
力があつたんだ』と気づく事。

さあ、己を押さえている栓を抜こう！

2007年結成。「気合と本気の応援であなたを熱くする」という志のもと、人々の勇気を後押しする応援団。

Column

みなさんは武藤氏の所属する『我武者羅応援團』を知っていますか？知らない人は是非検索してみてください。今回の言葉では“自身の力を解放する”という意味で表現された“栓を抜く”という言葉ですが、私が『栓を抜く』という言葉からイメージしたことは、お風呂の栓でした。線を抜くとたっぶり溜まっていた水が勢いよく流れていきます。最後の方は渦を巻きながら“吸い込まれるように”流れていきます。そこで私は開放するという意味と、もうひとつ、『あなたには人や自分自身が吸い込まれるくらいの魅力が秘められているんだ！』という意味も込められているように感じました。そして“誰もが”そんな力を持っていると武藤氏は考え、自分を信じて挑戦する人を増やしていくために我武者羅応援團を立ち上げたのだらうと思いました。

テレビ放映されているスポーツの試合などで応援シーンも何度も見てきました。例えばサッカーのサポーターによる大合唱、陸上の走り高跳びでの手拍子、甲子園などの高校生のブラスバンドと応援団・チアリーダーたちの息の合った応援など、人が人を動かす力の素晴らしさを感じさせてくれます。そういった応援によって自分の心が動いたことがみなさんにもあると思います。スポーツの世界で生きている私は、ありがたいことにこれまで非常に多くの方々から応援していただいています。もちろん私も他の誰かを応援した経験もあります。喜んでもらったり、『力になった』と言ってもらえると非常にうれしく、『逆に力をもらったな』という気分になったことを覚えています。我武者羅応援團の動画を見ると、応援される側は競技や作業をしているわけではなく、彼らの応援を黙って見守り、正面から受け止めています。互いに涙するシーンもあります。彼らの応援には自分をさらけ出すことに対する“躊躇”を取り払ってくれるようなパワーがあります。何度も言うようですが是非検索してみてください。

応援の力を感じる理由に『自分以外の方が自分以上に自分のことを考えてくれている』という気持ちが伝わるのが挙げられます。そういう意味では応援する側もシンクロしているわけですから応援される側が主役とは限らないのです。自分で栓を抜くもよし、仲間に抜いてもらうもよしだと思います。栓を抜いてスッキリした気持ちで挑戦してみませんか？正智深谷高校はみなさんの自己実現に向けた挑戦を我武者羅に応援します！